

くさしぎ便り No.3

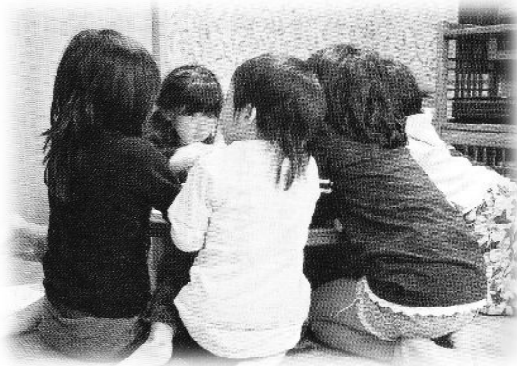
くさしぎ・草の根市議と市政を考える会 2013年2月発行

「くさしぎ便り」No.3をお届けします。今回は保育について。保育園に入れたくても空きがない、保育園と幼稚園、どちらがいいか分からないなど、就学前の幼児をかかえた保護者は悩みが付きません。幼児が生きる場とそれを保障する制度について、最新事情も交えてお話をお聞きしました。

「あきる野っぱら 学びの場 その3」 ご報告

12月20日あきる野ルピアにて開催

入れる？ 入れない？ あきる野保育園事情



話題提供者 溝口義朗さん

● 溝口義朗さんプロフィール ●

認可保育所勤務を経て、平成14年、あきる野市に認証保育所「ウッディキッズ」を開く。現実に即さない法律の不自由さに疑問を持ち、あくまで認可外にこだわり続けることで、家庭を思わせる“生活に根ざした”保育を貫く。保護者からは「よっちゃん」と呼ばれて頼りにされている。



「生活」そのものの教育力

私が園長をしているウッディキッズでは、大人と子どもと四季折々に生活するなかで、人は人に依存し協働し、その中で学び育つことを毎日繰り返しています。何のことはない、桑の実を摘んでジャムを煮たり、傷んだ床を塗りなおしたり、そんな生活のあ

たり前の中で、大人に抱かれて見ていただけの子どもが、次の年には手伝いたいと言出し、翌年には技術を身に付け、自然と役割を果たしていくようになります。

そしてその姿を、憧れのまなざしで小さな子は見つめ、学びの限りない循環が生まれていくのです。

教育というのは学校教育のように、暮らしの場から離れて知識を伝達する教育と、

上に述べたような暮らしの中からの原体験によって知識を学び取っていく教育があります。乳幼児期の教育は、やはり後者が主体となるでしょう。そしてその時、子どもたちの、言い換えれば人の主体的な意欲は「集団」に所属することで表出されます。

たとえば保育所という集団の中で、「誰かといっしょにいたいから役割を担いたい」とか、大きな子の姿に憧れて「今度は絶対自分がやりたい」とか、そんな欲求が生まれてきます。それを主体的に実現していくことが学習といえるのだと思います。

こうして個々の子どもが変化し、まわりの大人も変化して行く中で、当然、集団自体も変化をしていくこととなります。それがまたメンバーと集団そのものを育てていくというダイナミックな運動が、日々起きているのです。

ウッディキッズは地域に散歩に行ったり、よく地域の人と関わります。それもお互いの相互作用を生みだしています。

また、生活の場での学びというのは、たとえばもちは飾っておけば割れます。そうした体験の積み重ねが、ある日何かの意味付けを得て、さらに大きな理解に結び付くことがある学びといえます。



少子化は女性の就労や 経済発展と相関

子どもは作るものではなく授かるものです。しかしある程度の生活基盤がなければ、子どもを産む気持ちにはならないでしょう。

しかし残念なことに、日本の家庭は貧困化していることが各種の指標に表れてきています。たとえば、非正規雇用者が全雇用者に占める割合は1990年の20.1%

から、今や40%を越えるほどに増えていきます。雇用の不安定による貧困がかつてないほど強くなってきているのです。

世界を見渡してみると、出生率が高い国は、女性の就労率が高いことが分かります。それを可能にするためには、家庭だけではなく社会で子どもを育て、子育てが家庭の経済的負担を減らす制度が不可欠です。

内閣府の調査では、独身者の9割が結婚を望み、子どもも2人以上持ちたいと望んでいます。少子化は若い人が面倒な子育てを避けているというよりも、経済的な要因や女性の就労との相関関係が大きいのです。



子ども・子育ての 新しい仕組みに思う

現状の制度では、就学前の子どもたちの多くは認可幼稚園や認可保育所を利用しています。一方でウッディキッズのような認可外保育所を利用している子どもたちもいます。そして、0歳から修学前の子どもたちの4割は幼稚園にも保育所にも通わずに家庭で育児されていることも事実です。

同じ子どもを対象としながら、幼稚園は文科省、保育所は厚労省の管轄であり、法律や設置基準、運営費などの公的資金などが違っていることが長年の課題でした。それで幼保を一元化して「総合子ども園」にまとめようとしたのですがうまくいかず、現行の「認定子ども園」の考え方を基にした「幼保連携型認定子ども園」、「幼稚園」に近い「幼稚園型認定子ども園」、「認可保育所」に近い「保育園型認定子ども園」を主軸に2015年4月から新しい子ども・子育ての仕組みをスタートさせることとなりました。(2012年8月11日の3党合意)

「子どもは社会の希望であり、未来を作るもの」であるとし、「すべての子ども」の育ちを保障するための大きな制度改革であったはずですが、実際には利用者にとっては今の制度とは変わらない形であると思います。そして変わらないことに賛成する多くの意見があることも事実です。

しかし公的資金の流れは大きく変わります。従来の制度では、「認可保育所」には保育所運営費として、また「幼稚園」には私学助成として公的資金が歳出されていました。新しい仕組みでは、施設にではなくひとりひとりの子どもに「育ちの資金」を「給付」する仕組みです。保育施設は基準が満たされ、自治体の保育需給があるのであれば、認可、認可外にかかわらず子どもに給付された運営費で運営することになります。家庭で子育てする人には「児童手当」という名称ですが、消費税を財源とする給付が受けられることになります。

子どもは民主主義の担い手

「子ども」は近代になって発見された概念です。それまでは小さい大人という見方しかされませんでした。子どもの発見により、児童教育や児童文化、児童心理などが研究されるようになりました。しかし、人々の子ども観は一定ではなく、時代と共に変わっていきます。今日、海外では子どもを一人の「人」としてとらえ、その教育内容も民主主義を育てるための教育に改革されています。子どもは大人に依存はしても、従属するものと捉えるのではなく、ひとりの人として、その子そのまま大きくなることを社会で保証することが重要なのです。様々な人々が共存しあい、その結果、多様

きょうはお日さまと仲よし！（ウッディキッズ園庭で）



性のある人々の存在する社会が成立するのだと思います。「その人そのままよい」それが、生存権であり民主主義の土台だと思うのです。その人そのままよいことは、自分自身の居場所も作り出します。（了）



会場のやりとりの中から

- ・あきる野市の待機児童数は？→（溝口）40 数名。
- ・認可保育所に預けられる順番は、正規職員がまず優先され、本当に収入が必要な人ほど、労働時間数が足りず、高い保育料で他施設に預けています。→（溝口）現制度が「措置」であるため、必要性が点数化され、労働時間が保障された正規職員が保育料の安い保育所を利用するという矛盾が出ている。
- ・新システムで自由契約になったら親の立場が弱いという声もあるが→（溝口）かえって保護者が納得して子どもを預けることができる面もある。ウッディキッズに入所の相談に来た場合は、半日ぐらい保育理念など保護者と話す。そうすると家庭保育を選ぶ人もいる。
- ・あきる野市の保育、幼児教育の問題点は？→（溝口）認可施設が変化を求めないために、新しい施設が認可されにくいなどマイノリティの声が届きにくいからいがあるように思う。

「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」の紹介

「くさしぎ」は鳥の名前ですが、「草の根市議」という意味も込め、会の名前としました。昨年の福島原発事故以後、多くの気づきがありました。その中で「今まで私たち市民は、あまりにも政治家に政治をお任せにしてきたのではないか」という苦い反省もその一つです。「くさしぎ」はこの反省に立ち、もっとも身近な市政に、私たちの代表の「草の根市議」を誕生させ、その市議とともに市政に主体的に関わろうと呼びかける、あきる野市民の会です。

昨年11月からこうした趣旨に基づき、西多摩地区の草の根市議に話を聞いたり、どういう市議が望ましいか等話し合いを重ねてきました。その結果、市民代表としての「草の根市議」は次のような要件を持つのではないかとイメージがまとまりました。

- ①市民といっしょに市政を考える。
- ②市の現状と問題点を市民に情報発信する。
- ③開発優先ではなく、環境優先(放射能への危機感を持つ)。
- ④マイノリティの視点をすくいあげる。

以上のような要件を満たす市議を市議会に送り、ともに市の課題を考え、ともに解決していく良き伴走者となりたいと考えています。あきる野市を今以上に暮らしやすい「マイタウン」にできるよう、多くの市民が「くさしぎ」の活動に参加して下さる事を期待しています。

～つながりましょう～

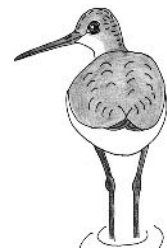
(^_^)/ 「くさしぎ」メンバー募集中 (*^_^*)

「あきる野のごみが気になる」「放射能は大丈夫?」「市の財政はどうなってるの」なんて市政に少しでも興味がわいた方、「くさしぎ便り」を今後も読みたい方、「くさしぎ」のメンバーになりませんか? 市民として楽しく市政に関わりましょう。

連絡先 ・e-mail kusasigi@nifty.com

・190-0154 あきる野市高尾 182-1

TEL&Fax 042-596-4569(佐橋)



くさしぎニュース

♥「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」の共同代表 田中直子さんからご挨拶 ♥

『市政』と言うことに関して、今まで自分がどれほど知っていたでしょう?

これまでお任せで、あまり疑問にも思っていなかったことが、3.11の震災による福島第一原発の事故以来、様々なことを自分たちで考え選択しなくてはならなくなり、お任せだけでは済まされず、それが市政を考える契機になりました。『くさしぎ』では 私たちの身近にある”あきる野市の色んなこと”を自分たちで情報を集めたり、詳しい人から話を聞いたりして、学び、考え合っています。例えば私たちが出す”家庭のゴミ”のちょっと先、子どもたちが育つ環境のことなどから…。難しい政治のことばかりではなく、本当に”身近な事を知る”ことから 自分たちの暮らすあきる野の市政に参加していけたら…と、考えています。

